

東京都中体連卓球専門部の 新型コロナウイルス感染症対策方針について

東京都中体連卓球専門部では、各校での練習再開や各地区大会の実施をふまえ、ガイドラインを作成しました。このガイドラインは、国際卓球連盟(ITTF)や日本卓球協会(JTTA)などの感染症対策方針に従い、現時点で得られている知見に基づいて作成しているため、科学的根拠の変化などに合わせて、改訂されることもあります。また、感染状況や感染症対策が各市区町村や各ブロックにより異なっているため、各々の実情に合わせて運用していただくようお願い申し上げます。

1 練習を再開するにあたっての注意事項

- ①十分な活動スペースを確保し、密集しすぎない環境をつくる。
- ②以下の症状がある場合は練習参加を見合わせる。
 - ・体調不良(発熱・咳・喉頭痛など)
 - ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいると分かった場合。
 - ・過去14日以内に政府から入国制限や入国後の観察期間を必要とされている国や地域への渡航や当該在住者との濃厚接触がある場合。
- ③当面の間、ダブルスの練習は避けることを推奨する。

2 練習場の環境整備について

- ①練習開始、終了後には石鹸を使って念入りに手洗いを行う。アルコールなどの手指消毒液などが配備できる場合は、練習場入口付近に設置することが望ましい。
- ②練習中のマスク着用は不要だが、練習以外の時間や至近距離で会話する時などは着用し、常に練習中もマスクを携帯すること。
- ③更衣室は使用しないことが望ましい。練習できる服装で練習会場に来場することを推奨する。
- ④練習開始前、終了後は必ず念入りに石鹸で手洗いをする。
- ⑤一度に練習する環境の目安として、2m以上の間隔が維持できる程度の参加数に制限すること。卓球台の間隔も4m程度開けて設置することが望ましい。
- ⑥窓や扉を開けるなど、換気を行う。
- ⑦練習中、練習終了後のミーティングではマスクを着用すること。
- ⑧複数の者が同じボールを使用することが避けられるように工夫すること。また、手汗を台の上で拭いたり、足の裏のすべりを手で拭いたりしないように指導すること。
- ⑨その他密集状態の回避するために、練習内容を工夫すること。

3 大会開催時の感染症対策について

大会の開催については、各自治体の方針に反しないことを前提に、競技特性をふまえながら対策を行う。

- ①大会は東京都中体連、および各ブロック、各市区町村の感染防止方針に従って実施する。大会の規模、競技内容、対策の具体的方法などについては、各地区の担当校長と確認すること。
- ②当面の間、競技種目はシングルス戦のみとすることを推奨する。(団体戦も5シングルスなど)
- ③競技会場の実情に合わせて参加人数などを設定し、当面は大会に参加しない者の応援観戦などは自粛することが望ましい。また、一度に競技を行う環境の目安として、2m以上の間隔が維持できる程度の参加数に制限する。卓球台の間隔も4m程度開けて設置することが望ましい。
- ④参加者から以下の事項を記載した書面提出を求める。(学校ごとにとりまとめたもので可)
 - ・氏名、年齢、住所、連絡先。 ※ 個人情報の取扱いに注意。
 - ・参加者の保護者へ、大会参加の承認(署名)。
 - ・大会当日の体温。
 - ・大会前2週間における体調不良などの異常の有無。
- ⑤以下の症状がある場合は大会参加を見合わせる。
 - ・体調不良(発熱・咳・喉頭痛など)
 - ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいると分かった場合。
 - ・過去14日以内に政府から入国制限や入国後の観察期間を必要とされている国や地域への渡航や当該在住者との濃厚接触がある場合。
- ⑥競技中のマスク着用は不要だが、競技以外の時間や至近距離で会話する時などは着用し、常にマスクを携帯すること。また、石鹸によるこまめな手洗いを励行すること。
- ⑦大会進行本部席や控え室など、競技領域以外の場所でも密集状態にならない工夫を行うこと。
- ⑧競技会場の実情に合わせ、必要に応じた換気を行う。また、手洗い場など複数の参加者が手を触れると考えられる場所をこまめに消毒すること。
- ⑨会場内で大きな声で応援しないように留意すること。
- ⑩握手など、選手同士の身体を接触させる挨拶を避けること。
- ⑪手汗を台の上で拭いたり、足の裏のすべりを手で拭いたりしないように指導すること。
- ⑫当面の間、チェンジエンドは行わないことが望ましい。
- ⑬更衣室は使用しないことが望ましい。競技できる服装での来場を推奨する。